

小さな声を、聴く力。



市議 2期
たばた智子



LINE



党副支部長
えぶち真紀子



LINE

2022年3月 逗子市議会議員選挙

えぶち真紀子氏を公認

公明党は、2022年3月に行われる逗子市議会議員選挙の予定候補として、新人のえぶち真紀子氏を公認しました。田中英一郎議員の後任として、大好きな逗子をより良いまちにするために、挑戦します。

プロフィール

- 1962(昭和37)年2月11日生まれ
- 第二逗子幼稚園、久木小学校、久木中学校、横須賀市立横須賀高等学校卒業
- 地元・逗子育ち。盲導犬育成のボランティアに10年以上携わるなど、共生社会の実現に向けて奮闘
- 党逗葉支部 副支部長 久木在住

新型コロナウイルス感染症対策といえば 公明党

公明党は、新型コロナワクチンの確保や無料接種を主導し、国民の約8割が2回目の接種を完了しました。現在、日本の感染状況は落ち着いていますが、海外では新たな変異株「オミクロン株」が発生し、感染は各国に広がっています。

デルタ株が拡大した「第5波」の教訓も踏まえ、「第6波」に備えた医療提供体制の強化や3回目のワクチン接種、飲み薬の実用化などに公明党は全力で取り組んでいきます。

公明党の主張が実現しました!

入院受け入れ体制の強化

昨年夏と比べて3割増となる約3万7,000人が入院できる体制を構築するため、病床の増加や使用率の向上を進め、流行時でも十分機能する体制づくりを進めています。また、重症化リスクがある患者向けの臨時医療施設や入院待機施設も、昨年夏の4倍弱となる約3,400人を収容できるように増強します。



自宅・宿泊療養体制も万全に

ピーク時に約23万人を想定する自宅・宿泊療養者への対応では、陽性判明の当日か翌日に連絡を取り、健康観察や診療ができる体制を構築します。

家庭内感染を防ぐため、宿泊療養施設も昨年夏の4割増となる約6万6,000室を準備。重症化の兆候をつかむパルスオキシメーターも69万個確保し、全自宅療養者に配布する体制も整えます。

飲み薬の開発・普及

第5波において自宅で亡くなる事例が相次ぎ、コロナ患者が自宅で服用できる飲み薬への期待が高まっています。公明党は衆院選で、飲み薬の開発・実用化を重点政策として掲げ、党を挙げて強力に推進。アメリカの製薬大手メルクが開発した飲み薬「モルヌピラビル」が昨年12月24日、国内での使用を承認されました。160万回分を確保し、無料で提供されます。

3回目の無料ワクチン接種の促進

発症予防や重症化予防に大きな役割を果たしているワクチン接種。ワクチン確保への道を開き、接種の無料化を実現したのは公明党です。衆院選公約の3回目の追加接種の無料化も実現。昨年未より、医療従事者から順次、接種が始まりました。

「抗体カクテル療法」の拡大

軽症・中等症患者の重症化を防ぐ抗体カクテル療法。当初は入院患者にしか投与できませんでしたが、早期投与が重要であることから外来や往診など多様な場面で投与できる体制を構築するよう訴え、実現しました。今年初頭までに50万回分を確保します。

PCR等検査体制の拡充

早期発見・早期治療のため、迅速に検査できる体制構築を公明党は強く求めてきました。今般の補正予算により、感染拡大の傾向が見られる場合、都道府県知事の判断で、無料検査を実施することが可能となりました。この無料検査は、ワクチンを接種した人や感染の不安がある無症状の人も対象となります。

コロナ対策

10万円「すべて現金で支給」を要望し実現

コロナ禍で打撃を受けた子育て世帯の暮らしを守り抜く緊急支援策として、18歳以下(高校3年生まで)への10万円相当の支給が決定されました。公明党は、当初から一貫して10万円を現金で一括給付すべきである、と主張してきました。公明党逗子市議団としても、対象者へ最もスムーズな給付が実現できるよう、桐ヶ谷逗子市長へ現金10万円の一括給付を要望。逗子市では10万円すべてを現金で支給することが実現しました。



桐ヶ谷市長に要望書を提出(2021年12月)

公明党 逗子市議団の 取り組み

防災・減災

相次ぐ崩落…市民を守るため、国につなげ早期解決へ。

池子2丁目(アザリエ) 小坪4丁目
逗子インター復旧 新宿4丁目



現場調査に伺い、桐ヶ谷市長から現状を聞く(2021年2月)

2020年には、池子2丁目、小坪4丁目、新宿4丁目と逗子市内で民有地のかけ崩落事故が相次いで発生しました。市民の尊い命が失われる痛ましい事故に対して、公明党逗子市議団は、国、県といち早く連携し、復旧への予算を取得。早急な対応を実現することができました。

また、2021年7月には、横浜横須賀道路逗子インター入り口付近では、大規模なり面崩落が発生。公明党逗子市議団は、ネットワーク政党の強みを活かし、即座に国会議員とともに現場を視察しました。NEXCO東日本と安全の確保と一日も早い復旧について協議し、現地視察から迅速に復旧対応を進めた結果、事故発生から3ヶ月以内で逗子インターの利用再開を実現できました。



り面の崩落現場で被害状況を確認する(2021年7月)

暮らし

手軽に利用できる「デマンドタクシー」

高齢者や子育て家族の移動をサポートするデマンドタクシーの導入に向けて、2021年10月15日からアーデンヒル地域において実証実験「アーデンGO」を実施しています。移動の際に車いすや歩行器、ベビーカー、大きな荷物がある時にも積み込むことができ、通常のタクシーよりも安価に利用でき、安心して利用することができます。多くの利用者からも、喜びの声が多く、これからも、皆様からのご意見とご要望を踏まえて、運行条件の更なる利便性向上を検討しながら、本格運用への移行を目指します。



JR東逗子駅前「アーデンGO」の乗降場所とチケット

市民中心の芸術祭

逗子アートフェスティバルを後押し

絵画、造形、音楽、映像などのアートは、人を感動させる力があり、人間性を豊かにしてくれるものです。逗子アートフェスティバルは「芸術文化活動による地域の活性化」を目的に、「地域に住むすべての人が、地域社会で、共に学び、共に育つ=共育」をテーマとして、2011年から毎年開催している市民と市の協働事業です。公明党逗子市議団は、展示場所や資金調達における市のサポートを応援。アートをハブにしたまちづくりを通して、自立した地域コミュニティを形成することと、アートによる逗子の魅力発信の実現を目指します。



同性パートナーシップ 証明書を交付

2020年4月から逗子市でも申請をされたカップルに宣誓していただくことで、同性パートナーシップの証明書の交付が実施されています。性的マイノリティへの理解と差別解消に向けて、公明党逗子市議団では、同性パートナーシップ制度に対する陳情を受けて以来、ずっと導入を要望・推進してきました。今後も一人ひとりが自分らしく生きられる社会の実現に向けて、取り組んでまいります。



子どもたちに「温かい給食」を 配膳型の中学校給食が開始



教育

これまでのお弁当型給食では、子どもたちのもとに配送・配膳されるまでに料理が冷めてしまう課題がありました。公明党逗子市議団は、子どもたちの意見や教育現場からの声を受けて、温かい食事を提供するために対策を考え、食缶方式による給食への変更を要望。2022年9月から中学校給食が従来のお弁当型から教室での配膳型へ変わり、子どもたちは温かいお昼ご飯を食べられることになりました。

すべての子どもに授業を届ける「オンライン環境」の整備

公明党逗子市議団では、コロナ禍で子どもたちが学校に登校しなくても、各家庭でオンライン授業が受けられるように、タブレット端末の貸与を進めてきました。2020年度に「一人1台」となる、小学校2,934台、中学校1,169台を提供。オンライン授業をより充実させるため、2021年度には教員へのマイク付きのヘッドセットやWebカメラも支援。オンラインで授業へ参加できるようになったことから、不登校や保健室登校の児童にも新たな授業参加の形を実現しました。

「生理の貧困」をなくす

公明党は、家庭の経済的理由で生理用品を購入できない児童・生徒を支援する、「生理の貧困」問題に対して、国をあげて、積極的に取り組んできました。逗子市内の小中学校では、2021年11月から学校の保健室へ相談に来た児童・生徒にも配布できるように。いつでも気軽に使えるように学校のトイレへ生理用品を常備し配布できるように、支援体制の拡大を要望しています。

逗子市役所の社会福祉課窓口でも生理用品の配布が開始

